

## BIM ライブラリ技術研究組合/部会 2

### 第4回在り方・運用合同部会 議事要旨

【日 時】 令和3年2月25日(木)15:30~17:00

【場 所】 Teams による Web 会議

【出席者】 (敬称略・順不同)

氏名	所属	氏名	所属
安田 幸一	東京工業大学/在り方部会長	千葉 貴史	(株)建築ピボット
山本 康友	東京都立大学/運用部会長	繁戸 和幸	(株)安井建築設計事務所
板谷 敏正	プロパティデータバンク(株)	吉田 哲	(株)日建設計
大森 文彦	大森弁護士事務所	金沢 純太郎	(地法)日本下水道事業団
後藤 孝二	(株)構造計画研究所	泉 清之	NPO 建築技術支援協会
波多野 弘和	日本郵政(株)	山本 愛	鹿島建設(株)
井上 直樹	(株)ダイテック	長田 公秀	(株)熊谷組
近藤伸一	応用技術(株)	楠山 登喜雄	(一社)日本建築積算事務所協会
福田 義徳	(株)NYK システムズ	本谷 淳	(株)大林組
小柴 慎一	パナソニック(株)	鬼頭 篤子	(株)大林組
渡邊 純一	パナソニック(株)	寺本 英治	BLCJ
森谷 靖彦	(公社)日本建築積算協会	平田 昌美	BLCJ
巖 文成	全国建設業協会	山口 浩史	BLCJ
能勢 平太郎	野原ホールディングス(株)	洪田 玲	BLCJ
岩村 雅人	(株)日本石器	福島 孝治	BLCJ

(以上 30 名)

#### [確認事項]

- ・ 前回の議事録
- ・ BLCJ BIM オブジェクト標準 ver2.0 に向けて論点整理・修正の報告
- ・ BIM と仕様書などとの連携の検討の報告

## 資料

- 資料 在・運 4-1 第 3 回 BLCJ 在り方・運用合同部会議事録（案）
- 資料 在・運 4-2 外部資金による委託業務実施要項（2020）抜粋
- 資料 在・運 4-3 在り方部会報告書及び業務委託報告書目次(案)
- 資料 在・運 4-4 BLCJ BIM オブジェクト標準 ver2.0 に向けて論点整理・修正
- 資料 在・運 4-5 BIM と仕様書などとの連携の検討
- 資料 在・運 4-6 既存 BIM ライブラリ比較検討(途中経過)

## 議事

### 1.前回の議事録の確認

### 2. BLCJ BIM オブジェクト標準 ver2.0 に向けて論点整理・修正の報告

### 3. BIM と仕様書などとの連携の検討の報告

### 4 報告について意見交換（概要）

安田：事務局の説明から、Ver2.0 を目指すにあたり、どこまでやるか基準に議論があったようだ。

建築確認・標準仕様書との連携に絞りレベルを統一する案で以前より判りやすくなったと思う。

ところで、関係団体の了解を得られないのはどういう理由か？

寺本：著作権の版権の持ち方で標準仕様書は国交省、管理指針は建築が公共建築協会、設備はまた別の管理指針の版権が各設備団体にあり、書籍の販売にかかわるので、現在は、お互い Win-Win の解決策を模索中である。

楠山：確認申請や標準仕様書との連携は基本設計、実施設計に対応するのか、アプリケーションが不明だが、どうか。

寺本：詳細については、連携部会で行う予定。

☆寺本：資料 4-5 日本版 Chorus を目指して

NBS Webinar の紹介（NBS Chorus の紹介）

コンテンツ、留意点、ガイダンス・プロダクト・ノート

仕様書連携、施工計画書のデータ連携のイメージ、検討内容を紹介

安田： Ver2.0 を目指すというのは⑦施工計画書までか？

寺本： ⑨まで、ある工種（アルミ建具）を例にとって情報の繋がり方を示す

楠山： 言うのは簡単だがやるのは大変と思う。

設計をやっているオブジェクトが目の前にあり、ライブラリや既存の部品  
特記仕様書を作るのは出来てからやるのか、行ったり来たりしてやるのか  
意図されている業務の対象がどこまでかは幅広いことが判った。とりあえず了解。

寺本： 完成してから特記仕様書を作成するシーンをイメージしている。まだ、途中段階である。別のユースケースを作って BIM 設計でどう使うかは別の流れを描かなければならないと思う。

いくつかの典型的なパターンを作り系統的に応用することもあるが、そのため  
にどのように情報変換するか検索専用 DB の作り方が重要。

頻繁に使われる物はキャッシュに置き、検索しやすくするところを考えるべきか  
もしれない。

楠山： DB の充実と見やすい、使いやすいことが必要。建物用途別に重要な並べ方、また、  
庁舎のメニュー等が必要だと思う。

実態として常時充足するとは思えないし、単に網羅的にあればよいのではなく、何  
が必要かを見やすくする UI が必要だと思う。

安田： 創るものを先に入れておくと適当なものが出てくると善い

安田： 確認申請との連携は BLCJ クラウドとの関係を示せる物があるか

寺本： まだ無い。P14 フローの中で確認申請と積算の矢印があるが、システムの中でどう  
繋がるか。外部に出すことになると思われる。

確認申請の部会は今年度ビューワー。進み方に依り待ちの段階。

岩村： 特記仕様書等の連携については、全体のやりたいこと、できるといいことは賛成だ  
が、細かいところが甘いと思う。

BIM と特記仕様書の一番難しいところは、ビルの箇所毎に仕様が違うことをどう  
連携させていくときに一方向では出来ないと思う。

「1 対多」対応をするときにシステムに入っていったいいのか気になった。この先  
細かいシステムが必要になり、問題になると思う。

どこまでオブジェクトの中に仕様を指定するか、どこから先を特記で持たせるか  
細かい議論が必要のようだ。たとえば、アルミ>塗装に飛んだときに跨ぐオブジェ  
クトベースと書く材料があまりリンクしていかない。簡略化しているから上手く  
繋がっているように見えるが網の目状の対応が必要だと思う。

安田： 複雑な仕様にするほど標準から離れていくようだ、最初はシステムを作ることが大事と思う

以 上